

1 題材名 「情景や気持ちを感じ取って、美しい日本語で歌おう」(歌唱・1年)

2 主眼

『浜辺の歌』の表されている情景や心情を考える場面で、音のつながり方や強弱、8分の6拍子に着目して考えたり、歌い試したりして、気持ちを表す演奏方法を見付ける事を通して、8分の6拍子やAとBのフレーズの音のつながり方の違い、強弱の変化を生かした表現で歌おうとすることができる。

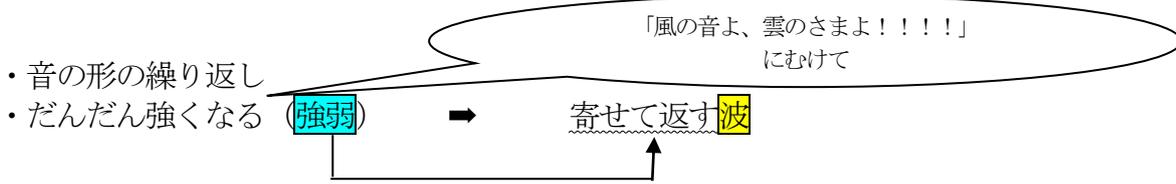
3 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応 (太字はキーワード)	◆学習内容 ◇教師の指導・援助	時間	備考
はじめ	1 学習問題を確認し、学習課題を設定する。	ア 海辺で散歩をしている作者が、まわりのいろいろな風景や過去の友、身近にいる愛する人などを思い浮かべて書いた曲なのかな。	◆写真で情景を示し、歌詞の内容を説明し、イメージを膨め『浜辺の歌』を歌い、学習問題を確認する。	10分	TV ワークシート 黒板  ピアノ
		イ 「風の音…」からは全体的に音が高くなっていて、音も大きくなる ウ <b>8分の6拍子の曲であること</b> によって、 <b>波が寄せて返すようにきこえる</b>	◇伴奏では、どのような情景や気持ちだが、表れているか問う。 ◆イヤウのような意見から、その場面を範奏してイメージと音との関わりを確認し、学習課題を設定する。		
なか	2 曲の特徴を捉え、その特長を感じて歌う。	エ 音符のつながり方は基本なめらかであるが、「風の音…」からは音の跳躍が大きい。 オ ピアノのフレーズが大きくなるにつれて音が高くなることから、「風の音…」から作者の気持ちも高まっているように感じる。	◇範唱し、気持ちを表している部分を問う。 ◆音符の玉同士を線で結び、音のつながり方を確かめたり、強弱を線で表し、盛り上がり方を確かめたりして、その特徴を捉えて歌い、それがどのような気持ちを表しているか考える。	25分	拡大楽譜
		カ 4分の4拍子の時はかっちりしているが、8分の6拍子では波が絶えず動いているようだ。	◇8分の6拍子と4分の4拍子の違いを範奏して示した後、波を感じながら歌う。		
か	3 気持ちを表す歌唱方法を考える。	キ 強弱はできているが、言葉が切れていて、作者の伝えたいことが分からない。 ク 「風の音よ…」は音がとんでいて高低が大きく、凸凹に聞こえてしまっていたが、姿勢をいつも以上に注意することによってまっすぐ歌えるようになった。	◆リスナー役を設定して演奏する。リスナー役は、気持ちを表せているかを観点に聴き、改善点を考える。 ◇明らかになった課題点に対して、発声や言葉の発音、呼吸法など必要な点を技術指導する。	12分	
		本時の評価基準に達しなかった生徒への手だて 音の上行や音が強くなった時にどのような気持ちを表していると思うか共に考える。			
まとめ	4 本時のまとめを行う。	ケ 強弱と音のつながりを意識することで、作者の昔を懐かしみ、気持ちの高まりを感じる事が出来た。 コ 他の曲でも強弱と音のつながりの両方を意識し、音楽の流れの大きさを意識したい。	◆作曲者が、情景や気持ちを表している場面とその表現方法について振り返り、全体で発表し合う。 ◇追求の中で見えてきたこと、今後に生かせそうなことをまとめ、題材のまとめとする。	8分	

5 反省

板書計画

**学習問題** 作曲者の成田為三さんは『浜辺の歌』でどのような情景や気持ちを表現したかったのだろう。



**学習課題** 音のつながりや強弱、8分の6拍子に着目して考えたり、歌い試したりして、気持ちを表す表現方法を考えよう。

**音のつながり**

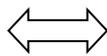
- ・風の声よ 高低差が大きい
- ・それ以外 なめらか

**強弱**

- ・風の声よ ずっと大きい
- ・それ以外 大きく変わらない

**8分の6拍子**

- ・全体 ゆれているよう  
→波の自由さ



**4分の4拍子**

- ・かっちり
- ・波らしさがなくなる

## 発問計画

### 導入（8分）

T「前一度歌う練習をしてくれた浜辺の歌、覚えてますか？今日は『浜辺の歌』についてじっくり考えていくよ。

教科書16ページを開いてね。」

「ではまず、この写真を見てください。教科書にも載ってるけど、これは作詞者（問いかけ：誰だ？）のゆかりの地であり、浜辺の歌の詞を作るきっかけになる写真です。じゃあ詞の訳を読んでみるね。

～朝、浜辺を歩いていると、昔のことが思い出される。風の音、雲の様子、寄せる波や、貝の色よ。

夕べ、浜辺を歩いていると昔の人が思い出される。寄せる波、返す波、月の色よ、星の影も。～

浜辺を歩いていると、思わず昔のことを思い出しちゃって、自然に呼び掛けるほど感極まったのかねえ。」

「じゃあこの詞や情景を感じながら全部唄ってみよう。」（通し 歌う）

「実は、この詞を見て『浜辺の歌』の曲を作ったのが作曲者の？成田為三さんなんだよね。」

「では、今日の学習問題にいくよ」

学習問題 作曲者の成田為三さんは『浜辺の歌』でどのような情景や気持ちを表現したのだろうか。

「じゃあ、今から伴奏を弾いてみるので、実際にさっきの写真や読んだ歌詞が、どんな音楽の材料で表現されているかを考えてみてね。」

（範奏）

「どうだったかな？」

S「同じ音の形が繰り返されていて、波のようでした。」

T「どんな音の形かな？（範奏しつつ）」

S「上がったたり下がったりするやつです。」

T「ありがとうございます。波みたいですね。同じこと思った人？」

S「はい」

T「じゃあ同じ波についてなんかありますか？」

S（出なければ誘導するが）「途中から、波が大きくなっていくような気がしました。」

波はずっと一定でないことを説明

T「途中ってどこの歌詞かな？」

S「風の音、の前から？」

T「いいね、波が大きくなっていくような感じね、波が大きくなることって曲の中でどうやって表されてた？」

S「強弱！」

T「なるほどね。ありがとうございます。」

S「じゃあ次、歌の方見ていくねー。ここで学習課題です。」

学習課題：音のつながりや強弱、8分の6拍子に着目して考えたり、歌い試したりして、気持ちを表す演奏方法を見つけよう。

#### 活動①

T「じゃあいまから、実際に楽譜の音符の玉同士をつないでもらいます。こんな感じで（見本提示）

はい、続き1分でどうぞ。」

T「つないでみて、なんか気づいたことありますか？」

S「風の音、だけ音の高低が激しい」

T「ほかのところはどう？」

S「滑らかだと思います。」

#### 活動②

T「じゃあ次ね。この下の余白のところに強弱のメーターを書き入れます。こんな感じ！（見本）

同じ1分でどうぞ！」

S「なんか気づいたことあるかな？」

T「ずっと大きいところがあるよ」

S「また風の音よ、のところだ。」

T「じゃあ他の部分は？」

S「大きくなったり小さくなったりして、また波みたいだね」

T「そうだね。今さ、2つ、音楽の材料に着目してくれたね。そしたらこれ私の意見なんだけどどうかな。」

（4分の4拍子範奏）

S「なんか変だ」

T「みんなが考えてくれてる波について考えてみたらどうかな？」

S「かっちりしすぎて揺れてる感じがしないね。」

T「それならその揺れてる雰囲気が出るとより一層いいかもね。」

T「そしたら、うまくさっきの音楽の材料を意識して、作者の気持ちを表現して歌ってみましょう。」

（1番のみ歌う）

T「ちょっと〇〇さん来てもらっていい？よく表現できているか聞いてみて。」

（1番のみ歌う）

S「強弱がしっかり意識出来ていてよかったです。」

T「音のつながりは？」

S「わからなかった。」

(2. 3回繰り返す中でサポート)

T「みんなで良い感じに歌えるようになってきたね。じゃあ振り返りの時間にします。」 4